

株式会社 駒場工務店

1817年創業の弊社は、和歌山県全域をエリアにする地域に密着した工務店として、住宅・店舗・公共事業など幅広い施工に取り組んでいます。品質と技術を次世代に継承し、施主様から喜んでいただけるものづくりをモットーに日々挑戦しています。

業種 建設 所在地 日高郡日高川町高津尾1400 TEL 0738-54-0314 FAX 0738-54-0185

従業員 正規16名(男10:女6) / 非正規5名(男4:女1)

結婚・子育てのための取り組み 育児休業 / 男性の育児休業 / 短時間勤務 / 育児休業の適用期間を拡大
育児休業復帰支援プログラム



WEB <http://komaba-k.com>



現場を持つ建設業では県内唯一のくるみん認定 目指すは「社員が働きやすい組織」

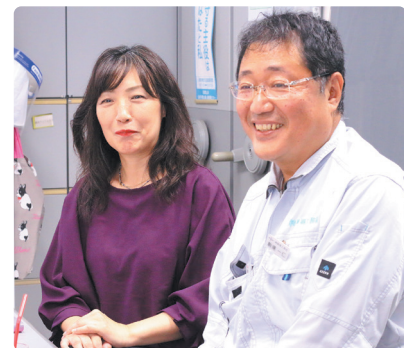


男女を問わず育児休業が取りやすい職場環境へと積極的に改善

以前から職場環境の改善には努めていたのですが、本格的に育児関連へ力を入れはじめたのは「くるみん」を知ったことがきっかけです。子育てしやすい環境が社員にとって大事なことで再認識し、弊社もくるみん認定をもらうためにすぐに勉強をしました。実際に認定を受けるまでに2年かかりましたが、その間に出産する社員もいて、行動計画を作りやすい流れ

になったことは有り難かったです。

やはり会社は社員ありきですので、安心して働ける環境を提供してあげたいと考えています。そのために月1回、公私の問題や会社全体に対し



取締役/駒場 己保さん 代表取締役/駒場 一仁さん

と思うこと、要望などを聞く面談日を設けました。そこで出た意見を参考に、必要に応じて環境の改善をしています。例えば子供の4月入園に合わせて復帰できるよう育児休業の期間を延長したり、保育園の時間に合わせて勤務時間の調整をしました。また、「そこで生まれたギャップはみんなで助け合いましょう」という職場の空気はできていると思います。

ほかにも弊社では、仕事をスムーズに行うために重要な「人と人のコミュニケーション」を高めるために2週に1回、現場の主たるメンバーを集めてそれぞれの現場状況を共有する報告会を開いています。お互いの状況がわかることで、何をサポートできるかが見えてきます。そのおかげで建設業界ではめづらしい男性の育児休業の前例をつくることもできました。

一過性で終わるのではなく、これらを継続していくことで、主婦だけでなく、もっといろんな立場の人が弊社で働いてくれる未来をつくっていかれると思っています。

解消したい課題

仕事と育児の両立への意識改革

- 建設業界は男性が大多数の社会なため、育児休業取得の前例が少なく、男性にいたってはほとんどなかった。

課題への取り組み

より働きやすい職場へコミュニケーション&サポートを向上

- 育児休業の推進と、社内報などの活用で情報の共有を図る。
- 個別面談や報告会を通じたコミュニケーションで、働きやすさと社内の協力体制を作るようにする。
- 通勤に使う自家用車のメンテナンス費の一部補助など、要望に対して必要と感じた改善策は積極的に採用する。
- 育児休業後の復帰に向けたプログラムを組み、スムーズな仕事復帰をサポート。
- 月2回、全員が定時で仕事を終える「ノー残業デー」を導入。
- 抱えている不安や問題などを相談しやすいオープンな雰囲気づくりを徹底。

その他のアイデア

●弊社駐車場を献血会場にしたり、エネルギーの大切さを伝える「ろうそく作り」のイベントを開催するなど、地域の人たちと積極的に交流することで、地域との密着度を高めています。

導入の成果

くるみん認定の取得をはじめとした環境改革に成功

- ノー残業デーに向けて仕事を進めるため、仕事の効率がアップ!
- 社員から「息子を働かせたい」という相談があるなど、社員自身にも魅力的な会社だと感じてもらえた。
- 当初から目指していた「くるみん」認定を取得できたうえに、女性活躍企業同盟にも参加。子育てサポート企業として内外への周知と、取り組んできたことへの自信に繋がった。

現場の声

【復帰後、短時間勤務を利用している工務部の中本さん】



出産前と違い、いまは育児のことでも考えたスケジュールをたてなければなりません。その点、短時間勤務や子供の発熱時に休みが取りやすいことなど、仕事と育児が両立しやすい制度があって助かりました。出産後の復帰を待っていただいたことも有難かったです。これから育児休業を取得する人が働きやすくなるよう、サポートしていきたいです。



現場の声

【育児休業を利用した工務部の道下さん】



5月に育児休業を取得し、1ヶ月半の貴重な機会をいただきました。この業界では男性の取得はあまり聞いたことがなく、いま会社にいる人も大半はそういった時代を過ごされてきたかと思います。その人たちが理解して支援してくれたことが本当に有難く、安心して育児に専念できました。いまは家族が増え、頑張ろうという意識が強まっています。



課題解決までのプロセス